



市看×いちかん

ちいき通信

2015年 冬号

2015年12月10日 発行

今号の内容



- P1. ・地域の生活を支える
人材育成を目指して
・COCコラボ教育ピックアップ
- P2～3. COCフォーラム
・地域の顔
(住民座談会の報告)
・地域づくり・健康づくり
(須磨区まちづくり課
鎌田智江さん)
・コラボ教育での学び
(大学院博士前期課程2年生
原田富士子)
・COC研究ひろば 第5回
(地域・在宅看護学
宇多みどり)
- P4. 活動予定

いちかん…神戸市看護大学の略称「市看」

「(い)っしょに(ち)いきづくりについて(かん)がえる」をコンセプトにしています。

地域の生活を支える人材育成を目指して

神戸市看護大学 老年看護学分野 助教 秋定真有

COC事業では、地域の人々の暮らしを理解できる人材、とりわけ、地域の連携をサポートし、地域における看護を担う人材の育成に力を入れています。

そこで、COC事業の枠組みを踏まえた老年看護学分野の4年次の総合実習では、従来の介護老人保健施設実習に、今年度より居宅介護支援事業所や病院の総合支援相談室での実習を取り入れました。この実習では、対象者の方とご家族の地域での生活を支えるために、病院看護師、訪問看護師、医師、理学療法士など多職種の人々がどのように連携しているかを学びます。そこで学生は、多職種の人々が、対象者の方とご家族の望む生活を支えるために寄り添って、例えば、介護保険サービスの利用調整などにおいて連携する様子を具体的な場面として目にし

ます。学生は実際に介護保険サービスを利用し生活している人々の生の声を耳にし、その生活を支える専門職の熱意ある姿を間近に見ることにより、これから地域における看護を担っていく自分たちに求められる役割を感じ取ることができたと思います。実習後には、「将来は、地域で人々の生活を支える看護師として活躍したい」と抱負を語る学生もいました。

この実習は、暑い時期に行いましたが、季節が巡るのは早いもので、少し涼しくなったと思ったら、やがて日に日に寒さが増し、今ではもう雪が降りそうです。桜の咲く頃になれば、学生達も1人の看護師として看護の実際の場合へ巣立っていきます。地域の人々のその人らしい生活を支えることができる看護師として、この実習での学びを活かしながら、成長して行ってほしいと思います。

COCコラボ教育ピックアップ ～2015年秋「ヘルスプロモーション論」～

ヘルスプロモーションは、「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」と定義されており、地域の健康づくりを考えるうえで基本となる概念です。本学では1年生の必修科目となっており、年1回須磨パティオホールで、住民と学生が合同で講義を聴講します。今年度のテーマは「あなたの脳は健康ですか？」です。認知症予防の生活習慣の講義を聞き、「脳トレ体操」を実践しました(トップページ写真)。「脳はあきらめない!」をキーワードにし、「聞いたことを頑張ってみます」と住民の方から感想をいただきました。舞台に立っての体操では、学生はなかなか積極的に前に出られない場面もありました。コラボ教育を通して、専門職として自信を持って住民の方と接することができるナースに成長していくといいですね。

【地域の顔～ COC 事業評価 住民座談会からの報告～

COC事業3年目にあたる今年は、事業全体の中間評価の年にあたります。このたびコラボ教育を実施している須磨区竜が台、菅の台地区の住民さん4名にお集まりいただき、事業に参加してのご意見を伺いましたので、本誌で紹介いたします。

【本学学生が参加することについて】

「住民は普段家庭で、じっくり話を聞いてくれる人がいないので、若い人が来て話を聞いてもらえる、自分を知ってもらえるので、自分の存在感や価値観を認めてくれる人がいると感ずることができる」「学生は病院などの施設で、経験を積むものと思っていたので、地域の場に来て学んでいることに驚いた」

【COC事業による効果について】

「同じ団地の男性の方が参加されていて、普段は挨拶だけが、健康測定の場所ですら測定結果をお互いに話すようになった」「男性はなかなか知らない人と会話をするのができない。でも同じ団地からきているというのを知ることによって安心し、知らない人とでも会話できる機会になっている」「健康測定で顔見知りができ、その人から地域の活動(クラブ)の誘いを受け、趣味があれば地域にあるクラブに入るきっかけになっている」

2年生が行なう基礎看護技術演習Ⅲでは、学生は初対面の方への健康測定、インタビューを行なうのに緊張感を持って参加している中、住民さんからは声かけの仕方や、将来看護師となった時に患者さんの声に耳を傾ける大切さを教えていただいていることも、今回の座談会でお話いただきました。コラボ教育が学生の学びの場としてだけでなく、コミュニティの育成支援として貢献できることを期待したいと思います。

(報告者 相原洋子)



住民座談会の様子

COCサテライト室(須磨区竜が台)において

お詫びと訂正

前号(2015年秋号)の「地域の顔」の執筆者のお名前を間違えて記載していました。正しくは「金田洋士さん」です。お詫びと訂正をさせていただきます。

【地域づくり・健康づくり

「大学生と須磨区職員の座談会」～須磨区の現状と今後について語る～

須磨区まちづくり推進部まちづくり課 事業推進係長 鎌田智江さん
 「『須磨区』のイメージは?」2015年7月に開催した「大学生と須磨区職員の座談会」で学生のみなさんに質問をしました。人口減少、少子超高齢化が進む須磨区にとって、若い世代の方が「須磨区」にどのようなイメージを持っているのか非常に興味深く聞きました。やはり、「須磨海岸」や「歴史のまち」といった回答が多くありましたが、「魅力はあるが知られていない」という回答もありました。「若い世代を須磨へ呼び込む」ということが人口減少等の課題をかかえる須磨区にとっては非常に重要なことです。座談会で学生のみなさんの発言を聞いていると「須磨の魅力が若い世代に発信できていない」ということがわかりました。

また、「住みたいと思うまちは?」という質問には、「保育施設が充実」「公共交通機関が便利」「商業施設が充実」「地域コミュニティがしっかりしている」という回答がありました。生活の利便性とともな「地域コミュニティ」という視点も学生が持っているということに非常に嬉しく感じました。

須磨区まちづくり課では、地域のみなさんと協働でまちづくりに取り組んでいます。地域活動においては、団体構成員の高齢化など活動を継続していくことが困難になってきているという課題があります。若い世代の方々にも自分が住むまちに愛着を感じ、そして様々な世代の人が安心して暮らせるよう地域コミュニティの一員としてまちづくりに興味を持っていただきたいと座談会を通じてより強く感じました。

なお、座談会には、神戸市看護大学からは1回生7名に参加いただき、積極的に発言していただきました。ありがとうございました。

※座談会の報告書は須磨区ホームページに掲載しています。

<http://www.city.kobe.lg.jp/ward/kuyakusho/suma/keikaku/zadankai2015.html>



「大学生と須磨区職員の座談会」の様子

【コラボ教育での学び

コラボレーション看護論を受講して～チーム医療を推進できる人材に～

神戸市看護大学大学院 博士前期課程 2年生 原田富士子

今年度より、COC事業関連科目として大学院でコラボレーション看護論が開講されました。私も、地域連携の業務に携わっているため、チーム医療における看護師の役割や看護管理を学ぶことには大変関心を持っていました。

授業はオムニバスで多くの講師の方が担当され、どの回も非常に充実した内容でした。現場で活躍されているCNS（専門看護師）の方々の先駆的なケアチーム活動の取り組みや、在宅療養支援の具体的な事例を通じた実践を聞かせていただき、とても感銘を受けました。また、講義を受けて、私の職場での退院支援や地域連携がうまくいかなかった場面を思い出し、情報や交流の機会を待っている受身的な部分も多かったのではないかと振り返ることが出来ました。

私が専攻する看護管理学分野においても、地域の限られた資源の中で、医療を担う多職種がお互いの強みを活かし合うための地域レベルでのマネジメントは重要な課題です。今回の講義の中で、地域の医療スタッフ間で絶妙なバトンプスを行うためには、「顔が見える」を越えて「何をしているかがわかる」レベルの信頼関係を作ることが必要だと言われていました。私達は、看護が地域の中で何ができるか、より一層アピールしていく必要があると感じました。

経営学者S. ロビンスは、「チームとは、協調し共に働くことにより、構成員個々の投入力の総和以上の業績・成果をあげる相乗効果（シナジー効果）を生むものである」と述べています。チームで協働することが、地域住民の方にとって、より大きな成果や価値をもたらしているかどうか、チーム内の多職種が存分に各々の力を発揮できているのかわかっているかを問いながら、ケアをつなぐ看護師として成長していきたいと思えます。



大学院生室

【COC 研究ひろば 第5回

～医療・保健・福祉・介護における「多職種連携」の組織づくりを考える～後編

神戸市看護大学 地域・在宅看護学分野 講師 宇多みどり

前号では、在宅医療・介護の現場で「地域包括ケアシステム」が必要とされている理由とそれを構築するための「多職種連携」に関する組織づくりの研究について説明しました。今号はその続編として、「多職種交流会in須磨」（平成27年8月29日開催、以下「多職種交流会」）での活動と調査結果の一部を紹介します。

「多職種交流会」は、須磨区の医療・福祉・介護の専門職からなる自主グループによるもので、参加者は120名、医師や看護師など医療職が45.5%、ケアマネジャーや相談職などマネジメントを主とする職種が27.7%、ホームヘルパーなど福祉・介護職が26.7%でした。研究では、この会の協力を得てこれまでの調査で明らかになった須磨区の「多職種連携」における課題、①専門職としての個々の役割を知る、②地域の社会資源や他職種多機関の役割を知る、③連携の手段・作法を知る、④連携の行動化を図ることについて参加者に共通認識をして頂きました。そして、多職種で構成されたグループでの交流会（内容：各専門職の立場から「地域で認知症の方を支える」ための課題や役割についての検討）終了後にアンケート調査を実施しました。その結果、「他職種の役割は分かりましたか」や「情報共有すべき内容と他職種に伝える必要性が分かりましたか」の質問に半数以上が「わかった」と回答されました。また、「今回の経験は日々の実務で活用できますか」では、9割以上の方が「できる」や「まあできる」という回答でした。「報告・連絡・指示の手段、作法が分かりましたか」の質問では、「わかった」という回答が約17%と最も低い回答でした（回収率45.9%）。その他に、「問題を知ることはできたが解決に向けての話し合いが難しい」や「何ができるのかアイデンティティをしっかりと持つべき」という意見を頂きました。

これらの結果を受けて、「多職種連携」を強化するために必要な知識や技術等について提案ができるよう今後も検討していきたいと思えます。



「多職種交流会 in 須磨」
グループ交流会の様子

活動予定

1月

もの忘れ看護相談出前

1月14日(木)15:00~

場所：竜が台地域福祉センター
対象：竜が台地区の
民生委員・児童委員

3月

第4回COC運営会議

日にち未定。

場所：本学大会議室

4月からも、コラボ教育、
その他たくさんの活動を
予定していますので、
ご期待ください。

2月

2015年度 市民公開講座

「支えあって変えていく
～自分らしく生き、
そして旅立つために～」
(参加無料/定員200名)

6日(土)13:30~15:40

場所：須磨区役所多目的会議室
(市営地下鉄/山電板宿駅)

「健康生活支援学実習」

15~26日 須磨区竜が台、
菅の台地区

お知らせ

2015年度 市民公開講座の開催

平成28年2月6日(土)に市民公開講座を開催します。誰もが住み慣れた地域で安心して最期まで暮らし続けることを目的に、今、全国で地域包括ケアシステムが推進されています。今回の市民公開講座では、「寝たきり老人のいる国、いない国」などのご著書で知られている大熊由起子先生をお迎えし、「支え合って変えていく～自分らしく生き、そして旅立つために～」をテーマに、一人ひとりが、また地域の中で何ができるのか、どのような備えが必要なのかを一緒に考える時間になりたいと思っています。多数のご参加をお待ちしております。

COC編集部門のつぶやき

銀杏並木や紅葉が美しい季節になりました。駅から大学までの道を、時々虫との遭遇はありますが楽しく通勤している今日この頃です。運動不足解消、とまでは行きませんが最近階段を元気よく上がれるようになりました。駅では、学生が階段を2段ごとで上がっていく光景をよく見ます。一度やってみようと思っていますが、こけてしまうと恥ずかしいので、大学内で現在2段ごと上がる練習を日々行っています。

COC事業では、住民の方々のご意見を頂くことにより、学生が予想以上に役立っていることを実感できました。人とのコミュニケーションにおいて、学生にははじめての体験といえます。学生たちは地域の住民の皆様の暖かいまなざしを実感していることでしょう。

地域の方々との交流が今後きっと役立つと思います。“看護大学の学生が来るのが楽しみで待ち遠しい”と皆様に言っていただけるような大学作りや教育を、これからも楽しみながら行っていきたくと思っています。

(COC編集部門・TT)

発行所： 神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター

〒651-2103 神戸市西区学園西町3丁目4番地 TEL: 078 (794) 8048

問い合わせ先: kangococ@tr.kobe-ccn.ac.jp

平成27年度 第42号-3 (広報印刷物規格 B-1類)



市看×いちかん

ちいき通信

2016年 春号

2016年3月10日 発行

いちかん…神戸市看護大学の略称「市看」

「(い)っしょに(ち)いきづくりについて(かん)がえる」をコンセプトにしています。

今号の内容



- P1 ・COC事業の
更なる充実に向けて
・COCコラボ教育ピックアップ
- P2～3 COCフォーラム
・地域の顔
(須磨区竜が台地区
川部忠夫さん)
- ・地域づくり・健康づくり
(みなと銀行地域戦略部
森田成敏さん)
- ・コラボ教育での学び
(学生座談会の報告)
- ・COC研究ひろば第6回
(地域・在宅看護学 波田弥生)
- P4 活動予定

COC事業の更なる充実に向けて

～COC+への参加～

神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター運営委員長 石原逸子

平成25年度後期から着手したCOC事業も、27年度末で3年目が終了する。本年度は、COC事業を学会のシンポジウムで紹介する機会をいただき、本学COC事業を広報することができた。たとえば、日本看護学教育学会第25回学術集会(平成27年8月)では、地域住民による教育ボランティアについて紹介し、本学の地域貢献の実績がCOC事業の中で生かされている状況を報告した。さらに、第35回日本看護科学学会学術集会(平成27年12月)では、「地域包括ケア時代における看護学教育の新たな取り組み」として、COC事業の2年間の取り組みを紹介した。これらを通じて地域の中で学生たちを学ばせる意義と必要性について、学会参加者たちと意見交換でき、地域住民と共に創り学ぶコラボ教育についてPRすることができた。平成28年2月には外部委員による中間評価があり、「訪問看護人材の教育の

強化」「地域ケアシステムの構築」「地域住民のネットワーク構築」については、おおむね順調に進んでいるとのコメントを頂いた。さらに、COC授業を担当する教員もしない教員もCOC事業を通じて協力することが、地域住民との連携を推進していく力になるとの指摘もいただいた。COC事業の4つの課題に大学として取り組むことが、社会の中で大学の存在を意識することにつながり、この点が重要であるとのコメントもいただき、その重要性を再認識させられた。来年度からは、COC事業を継続しながらCOC+も本格的に始まる。神戸大学保健学部理学療法学科の学生たちと本学学生たちとが受講できる共通カリキュラムの開発や住民の生活動作や運動機能の増進に貢献する活動を行う予定である。学生たちが相互に協力し合う取り組みを通じて多職種間連携を学ぶことに期待したい。

COCコラボ教育ピックアップ ～2016年冬「健康生活支援学実習」～

健康生活支援学実習は、2年生が住民の生活の場に出向き、インタビューや地区探索を通して人と関わることや支援のあり方を考える実習です。本実習は一昨年まで本学の拠点である神戸市西区で実施していましたが、昨年度よりCOC事業の対象地区である須磨区でも展開し、今年度は10名の学生が実習しています。学生は実習を通して相手に関心をもって関わる力を養い、生活する人の視点に立って地区の環境や社会資源について考察します。2年生の前期には基礎看護技術演習Ⅲでヘルスインタビューを実施しましたが、本実習では、自分の足で歩いて地区を知ること、地域での暮らす人の健康や支援のあり方を考え、3年生の科目実習に向けて継続看護の視点を養っていきます。(写真は地区のグランドゴルフに参加したときのものです)

(神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター助教 石井久仁子)

【地域の顔～神戸市シルバーカレッジとは～

須磨区竜が台地区シルバーカレッジ 20期生 健康福祉コース 3年 川部忠夫

神戸市シルバーカレッジは、神戸市北区にあるしあわせの村の南端の高台に位置しています。開校は、平成5年9月で現在は20期生・21期生・22期生の3学年が在学し、日々学びクラブ活動・ボランティア活動に励んでいます。

開設コースは、健康福祉、生活環境、国際交流・協力、総合芸術の4コースがあり、総合芸術コースとしては美術・工芸、音楽文化、園芸、食文化の4専攻に分かれています。(定員は1学年合計420人、最高齢の方は87歳の方です)

入学資格は、神戸市在住の57歳以上なら男女を問わず入学出来ます。『再び学んで他のために』の建学精神をモットーに在校生は勿論卒業生も「地域活動、ボランティア活動に理解と熱意をもって」取り組んでいます。

カレッジには、クラブ活動が46団体とボランティア活動が29団体あります。

私が学んでいる健康福祉コースは、健康及び福祉に関する専門の各大学の先生方及び福祉施設等で働いておられる専門職の方、またNPOを立ち上げ地域の活性化に取り組んでおられる方々の講義と施設見学等が有り、サラリーマン生活では経験しなかったことばかりで授業時間が短く感じたことが多く有りました。又、クラブ活動では従来から好きであったゴルフ及び囲碁クラブに入り、先輩方や同級生とプレー等で楽しく遊びました。

一方ボランティア活動では、“イベント清掃びかびか隊”に入り神戸市内のイベントに参加しながら周辺のゴミ拾いを行い「街も心もびかびかに」の目標を達成することが出来、自身で満足したものでした。この3月には、卒業しますがカレッジで学んだことを生かし、今後も地域の活性化に貢献したいと思っています。



卒業研究報告会の様子

【地域づくり・健康づくり

～みなと銀行の医療・介護分野への取組み～

みなと銀行 地域戦略部 部長 森田成敏

みなと銀行地域戦略部の活動をご紹介します。当行では、平成26年度から開始した中期経営計画に基づき「地域発展への更なる貢献」を実現するため、地域戦略部を創設し、地域経済活性化策として農林漁業の成長産業化や商店街の活性化、オールドニュータウン問題への対応など様々な取組みを行っております。

今回は、神戸市看護大学様に関連する分野として医療・介護分野に対する2つの取組みをご紹介します。1つ目は、神戸市様が推進しておられる神戸医療産業都市への企業誘致のご支援です。平成25年に神戸市様と神戸医療産業都市の推進に関する連携協定締結し、地域企業が医療・介護分野への進出するためのセミナーを共同で開催しており、現在までに5回を数えます。最近では、1月27日に病院や介護事業者の方々を中心に関心の高い「介護リハビリロボットセミナー」を開催し、約70名の方にご参加頂き好評を得ました。医療や介護機器を開発し製品化するまでには、相当な時間がかかります。しかしながら、このようなセミナーによってお取引先等に情報提供することで、神戸医療産業都市へ進出される企業も増加し、当行の誘致協力で現在8社が進出しました。

もう1つは、一般の病院や診療所の方々に対する施策です。専門の医療コンサルティング会社と提携して病院の建替えや医療法人の事業承継、高齢者向け住宅の運営など医療介護のご関係者に関心の高い問題に対し、セミナーや個別相談会を実施し、地域の医療・介護事業が継続し発展していけるような取組みを行っております。

みなと銀行では、今後とも地域の皆さまへの金融・情報サービスの提供を通じて、地域経済の活性化に取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。



介護リハビリロボットセミナーの様子

神戸国際ビジネスセンター (KIBC)

【コラボ教育での学び】 ～COC 事業評価 学生座談会の報告～

本学では1,2年生から地域に出向き住民の方に協力いただく授業(コラボ教育)を行なうなど、全国の看護系大学でもユニークな取り組みを行なっています。これらの科目を受講して、学生がどのような学びに結びつけているのか、本学学生に集まってもらい、座談会を行いましたので、その中から学生の声を一部ご紹介いたします。

【コラボ教育を受講した感想】

「実際に住民の方と接してみたら、自分の健康をすごく気にしておられるんだな、というのを感じた。その時にどうしたら(健康が)改善できるのかということ、きちんと考えておかないと何もアドバイスができないというのをすごく感じた。」「教科書じゃなくて、(住民さんの)実際の言葉とか聞いて、『そういうふう考えてるんや』とか、その生活のなかで困ることとか、自分たちが想像していないことが聞けてよかった。住民の方からもっとそういう話を聞ける機会があったら、授業に対してももうちょっと意欲的に取り組めるかな。」

【地域についての学びに関して】

「小さいときから神戸に住んでいますが、改めて「神戸学(編集部注:神戸の歴史や文化について各分野の講師を招いて行われている講義)」で神戸のことを学んだり、神戸で働いておられる保健師の方から「神戸の人口」や「神戸市での保健活動」について聞いたりして、地元なのに知らないことが多かったので、すごく知識として生かさせていると思います。」「患者さん一人ひとり戻られる地域はそれぞれで、その地域の特徴とか特性とかも違う。何かその違いをどうやって学んでいけばいいのか、もう少し詳しく教えてもらってもいいのかな。」

【COC事業に対する希望】

「学生が出向くだけではなく、住民さんが来ていただくような授業がもうちょっとあってもいいと思います。」「地域に行ってその授業が終わったら終わりになるのではなく、継続性があつたほうがいいとは思っています。」

このような生の声を参考にして、学生にも地域にも実りのあるコラボ教育につなげていきたいと考えています。(地域連携教育・研究センター 准教授 相原洋子)



学生座談会の様子
2年生3名、3年生3名が参加。

【COC 研究ひろば】 第6回

～地域における健康づくり活動を続ける健康づくりリーダーの力～前編

神戸市看護大学 地域・在宅看護分野 講師 波田弥生

厚生労働省が発表した2014年の簡易生命表によりますと、日本人の平均寿命は、男性が80.50年、女性が86.83年と、日本は世界に冠たる長寿国です。健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間の健康寿命も、日本人は男女とも世界トップクラスです。しかしながら、最近10年の健康寿命の伸びは、平均寿命の伸びと比べて小さく、平均寿命と健康寿命の差は広がっている状況です。ここで大切となるのが、毎日を健康的に過ごせる期間の「健康寿命」の延伸です。須磨区は現在、介護保険における要介護認定割合が市内でも低く、健康的な生活を送られている高齢者の方が多い地域となっており、「健康寿命」が長くイキイキと生活されている方が多い地域だと思われます。この理由の一つとして、須磨区における健康づくりリーダーの皆さんが各地域で実施されている「健康づくり活動」の効果があるのではないかと私たちは考えております。健康づくりリーダーとは、平成8年から、須磨区保健福祉部の保健師のみなさんが、地域住民のからだところの健康づくり支援として、健康づくりリーダーの育成事業を展開し、これまでに322名の健康づくりリーダーを養成されました。

健康づくりリーダーは、地域の健康づくりのリーダーとなり、現在も各地域の個性を生かし、工夫を凝らした運動や体操の教室を自主的に開催して、健康づくりの熱意を地域住民に届け続けていらっしやいます。そして地区担当保健師は、年に1度のフォローアップ研修、各地域での体力測定と健康に関する講話を実施し、健康づくり活動に欠かせない情報と知識を広めておられます。

今回、COC共同事業として、健康づくりリーダーが地域における健康づくり活動を継続されている要因と、その活動に参加されている方々に、健康面でどのような良い効果が生じているのかを明らかにするために、須磨区保健福祉部と共同で研究を進めています。次号では、地域の方々にご協力いただきましたインタビュー内容やアンケート結果等の研究成果をご紹介したいと思います。



活動の様子

活動予定

4月

神戸市看護大学入学式
日にち：6日（水）
場所：神戸市看護大学ホール

第4回COC運営会議
日にち：22日（金）
場所：須磨区

6月

「基礎看護学技術演習Ⅲ」
日にち：2, 7, 9, 14日
場所：菅の台および竜が台
地域福祉センター

5月

「基礎看護学技術演習Ⅲ」
日にち：10, 12, 17, 19日
場所：菅の台および竜が台
地域福祉センター

「健康学習論」
日にち：12日（木）9：00～10：00
場所：名谷駅2階事業室

「健康学習論」
日にち：30日（月）9：30～11：00
場所：名谷駅2階事業室

お知らせ

コラボ教育の実施

2014年度から須磨区北部において、地域住民の方が学生の教育にご協力いただき、「コラボ教育」を実施してきました。この2年間でのべ645人の住民の方に、ご参加いただきました。このコラボ教育を通して、まさに本学COC事業の課題である「地域住民と共に学ぶ」体制が整い、地域の健康づくりにつながっています。2016年度のコラボ教育も、早速5月から開始します。看護学生による健康インタビュー、健康測定へご協力いただける住民の皆様を募集していますので、この機会にご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

COC編集部門のつぶやき

先頃、日本ポップス界一番の人気グループ、スマップの独立解散がマスコミを賑わせていた。このグループの大ヒット曲に『世界に一つだけの花』（槇原敬之作詞作曲）がある。「ナンバーワンにならなくていい もともと特別なオンリーワン」「一人一人みなちがう種をもつ その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい」という歌詞が人の気持ちを惹きつけ、明るく穏やかなメロディとあいまって既にスタンダードとなっている。ふと怖くなる時がある。「人は皆それぞれ異なる気質をもっていて、それぞれにそれを大切に生きていけばよいのだ」という至極あたり前のことを、「みんなで」心に刻み、「みんなで」確かめ合わなくてはいけないのだという同調圧力に知らないうちに絡め取られてしまうような気がする。このような歌詞の曲が流行る割には、異質な存在をみとめようとしない、不揃いに理由があるのではないかと考えることをしない日本社会を私も構成している。でも、よく歌詞をみれば、決してお互いを大切にしようとは歌っていないことに気がついた。それは言葉に出すまでもない、言わずもがなだよ、と「みんなで」思えばいいのだろうか。（編集部門SF）

発行所： **神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター**

〒651-2103 神戸市西区学園西町3丁目4番地 TEL：078（794）8048

問い合わせ先：kangococ@tr.kobe-ccn.ac.jp

平成27年度 第42号-4（広報印刷物規格 B-1類）